

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.43(通巻 47号)

平成 23 年 10 月 12 日発行

【目 次】

- こんなのきましたー利用サービス課によせられたレファレンスー 【44】 1
困ったときの有料データベース
- こんなのありますーいちおしレファレンス・ブッケー 【33】 2
映画のレファレンス・ブック
- 市町村のみなさんからの発信 【32】 3
「レファレンスあかずきん」
幕別町図書館札幌分館 太刀野 亜也乃 さん
- 国立国会図書館レファレンス研修に参加しました 4
- Librarian's Box(しよぼこ) 【28】 5
平成 24 年 1 月、新しくなる国立国会図書館のサービス
～「国立国会図書館サーチ」本格稼働～
- 課員のつぶやきー日々の業務からの短信ー 【30】 6
新生「利用サービス課」4ヶ月の記
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介(2011年5月～2011年8月分) 7
- News 9
 - 1 「わかりやすい健康に関する情報講座」開催(5/28)
 - 2 「だれでも・どこでも Q&A図書館」プロジェクト開始(6/1)
 - 3 国会図書館レファ協「参加館用サイト」のおすすめ事例に当館の事例掲載(7,8月)
 - 4 『小学生はこれを読め!』出版(8月)
 - 5 市町村図書館職員レファレンス体験研修実施中
 - 6 国会図書館「歴史的音源」の公立図書館への配信始まる
 - 7 全道図書館研究集会で法テラス関連の情報提供(10/7)
- 編集後記 10



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【44】

困ったときの有料データベース

よく質問がくるレファレンスの例として、園芸・農作物の病害虫の防除の仕方についてというものがあります。カウンターでの利用者からの質問もあるため、『原色果樹病害虫百科』（農文協編 農山漁村文化協会 2005）など各種参考図書をそろえています。なかなか利用者の求める情報に行き着かない場合もあります。このような時、有料データベースに助けられることがあります。今回は有料データベースを使って解決した事例を2件ご紹介します。

① カタツムリの駆除の方法

よく見かけるカタツムリですが、各種の病害虫百科関係の資料の目次を見ても項目が見つかりませんでした。害虫ではないのだろうか考えつつ、月刊誌『現代農業』になにか記事が載っていないかと農文協（農山漁村文化協会）の有料データベース「ルーラル電子図書館」を検索してみました。

この「ルーラル電子図書館」は、農文協の『現代農業』や『農業総覧 原色病害虫診断防除編』など多数の出版物を全文検索できます。「カタツムリ」で検索をしたところ『現代農業』1999年6月号の記事「よく出る病害虫対策 失敗しないための知恵袋 ナメクジ・カタツムリ類」があり、さらに本文を読むと“～ウスカワマイマイと呼ばれるカタツムリも～”という記述がありました。この記述をもとに“ウスカワマイマイ”で改めて事典類を見直してみると項目があり、資料の紹介をすることができました。

② ハスカップを栽培しており、病害虫および対策について知りたい

北海道ではよく栽培されているハスカップですが、まとまった資料はあまり出版されていません。

「ルーラル電子図書館」で“ハスカップ”を検索すると次の資料ができました。『農業技術大系 果樹 第7巻 特産果樹』（農山漁村文化協会 加除式）、このなかに「栽培の基礎（ハスカップ）」があり、病害虫防除についての項目もありました。この資料は未所蔵ですが、「特産果樹」が手かかりとなり、同一記事を収録した『果樹園芸大百科 16 落葉特産果樹』（農山漁村文化協会 2000）を、関連の北方資料と併せて貸出ししました。また、『ひと目でわかる果樹の病害虫 第3巻改訂版』（日本植物防疫協会 2009）にもハスカップの記述があり、購入提供しました。

他にも専門的なものでないかと、科学技術振興機構の有料データベース「JDream II」を検索しました。「JDream II」は、科学技術振興機構が持っている科学技術や医学・薬学関係の国内外文献情報を検索できます。内容は学協会誌（ジャーナル）、会議・論文集/予稿集、企業技報、公共資料などです。また、論文ごとに日本語で抄録が作成されていて、収録内容の把握ができます。

“ハスカップ” “害虫防除” の組み合わせで検索をすると、8件の論文がヒットしました。そのなかの『今月の農業 農薬・資材・技術』 Vol. 35 No8 (1991. 08)に「地域特産果樹の病害虫 ハスカップ」という記事があり、抄録を見ると“北海道内の栽培園で現在までに確認されている害虫50種、病害5種のうち重要なものについて被害と生態、薬剤による防除法を述べた”とありました。出版年は古いですが、この記事と所蔵先の紹介をしました。

「ルーラル電子図書館」は、農文協の「食と農」をテーマとした出版物を記事単位などで、デジタルデータで収録しており、全文検索ができるので収録箇所を予め把握して資料にあたれます。

「JDream II」は先にも書きましたが、論文の抄録が日本語で作成されており、収録されている外国語の論文の内容も把握することができ、収録誌名から所蔵館の調査も可能です。これまで調査が難しかった科学系の論文についてもこのデータベースで調査できるところもありますので、お問い合わせください。

※当館で導入している有料データベースについて、『Do-Re』No. 42（通巻46号）p9～10で紹介しています。併せてご覧下さい（<http://www.library.pref.hokkaido.jp/web/public/qulnh000000066p-att/pdf42.pdf>）

こんなのあります

—いちおしレファレンス・ブッカー 【33】

映画のレファレンス・ブック

現在、当館では「住民生活に光をそそぐ交付金」によって受け入れた資料の配架作業を日々行っています。今回はその中から、芸術の秋にちなんで「映画」に関する参考図書をご紹介しますと思います。また、当館HPの「Do-Links 映画」も役立つので見てみてください。(http://www.library.pref.hokkaido.jp/doc/ref.main/enta_eiga.html)

『全国映画ドラマロケ地事典』(日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2011.5)

請求記号：778.038/Z ￥9,500 (本体)

主に1990年代後半以降の、国内で撮影された映画・ドラマ467作品の主なロケ地となった場所、約1万件を通覧できる初のデータブックです。既存のガイドブックに載ることが少ないロケ地を調べることができます。映画の舞台として町おこしを考える地方自治体や観光関係企業にもおすすめです。

第1部「地域別一覧」ではロケ地を都道府県別に排列して、第2部「作品別一覧」では作品ごとにロケ地情報とタイトル・制作年・監督・脚本・出演者などの作品情報も記載してあるので作品ガイドとしても利用できます。



『事典映画の図書 1897年から1985年までの映画書誌集成』(辻恭平著 凱風社 2009.9)

請求記号：778.031/J ￥7,200 (本体)

1897～1985年に国内で刊行された映画関連の書誌データ5,900項目を集成しています。書名・著者名が不明な場合でも検索できるよう、独自の分類体系を採用しています。書名索引・シリーズ名索引・著者索引あり。1989年刊の卓上版です。

『映画賞受賞作品事典 邦画編』(スティングレイ編 日外アソシエーツ 2011.4)

請求記号：778.033/E ￥18,800 (本体)

1926年の「キネマ旬報ベストテン(第3回)」から2011年の「ベルリン国際映画祭(第61回)」まで、国内外の映画賞、映画祭、コンクールで受賞した日本映画4,200作品のデータを収録しています。映画タイトルの五十音順に、作品の概要(タイトル・制作年・公開年月・監督・脚本・主なキャストなど)と受賞データを記載してあり、巻末には映画賞・映画祭ごとに受賞作品を一覧できる「映画賞索引」があります。

『日本の映画人 日本映画の創造者たち』(佐藤忠男編 日外アソシエーツ 2007.6)

請求記号：778.21/NI ￥12,000 (本体)

映画草創期の“活動屋”から現在第一線で活躍中の若手まで、監督・脚本家はもちろん、製作・撮影・照明・美術・音楽・アニメ・字幕・評論・研究・文化活動(俳優を除く)などで日本映画に功績を残した1,472人を収録した総合的な人物事典です。

各人物には、詳細なプロフィール、著作・伝記・評伝などの関連文献に加え、「興味テーマ」「映画に関わった動機」「印象に残る男優・女優」「生涯の一本」「作ってみたい映画」など独自のアンケート回答も掲載。巻末には「活動分野別索引」あり。

日本映画研究の第一人者として知られる評論家・佐藤忠男氏が編纂しています。

市町村のみなさんからの発信 【32】

「レファレンスあかずきん」

幕別町図書館札内分館 太刀野 亜也乃 さん

平成 20 年、21 年の 2 年間、北海道立図書館で勤務しレファレンスを担当する機会に恵まれました。その時の事を回想しながらレファレンスについて思う事を書いてみたいと思います。

当時、依頼が多い図書館からは 1 日数回、質問の FAX を受ける事がありました。しかもそれぞれ担当者が違います。所蔵している資料で回答できなかった結果の調査依頼でしたが、それ以前に、その館が受け付けている件数が多かったのでしょうか。お客さんへの門戸が広い図書館だと、寄せられる数や内容から感じました。

お客さんとの会話の中で、その方自身ですらそれが疑問、質問と気づいていない”？”を顕在化し調査回答に結びつける能力、それは、図書館員の向き合う姿勢にあると思います。

図書館に勤めだしてすぐの頃を振り返ると、つたないながらも一人一人のお客さんへ向き合う姿勢はまっすぐであった様に思います。年数が経ち、増えていく職務に追われる内、自分の姿勢が変化したことは否めません。

レファレンスは時間と手間がかかり、難航する調査に疲労困憊することもしばしば。レファレンス専門の担当者がいない町の図書館では、他の業務をいくつも持ちながらの調査は困難なものとなります。未熟であればなおの事。そうすると、いつしかレファレンスを疎かにし、数字で現われやすい貸出、予約、返却を優先しがちです。

先日、十勝管内公共図書館協議会の研修で富士大学の齋藤文男教授の講義「レファレンス探検隊」を受ける機会がありました。齋藤先生のレファレンス講座の受講は 10 年くらい前から通信も含めて 4 回目。「レファレンスはルーティンワーク」、「図書館員は資料を知ること」という普遍的な理念とともに、レファレンスは「市民のお金をもらってやっていること」であり、顧客サービスを強く意識することの必要性を以前以上に何度も説かれていたのが印象的でした。

「すべてインターネットで調べられる。図書館で調べる事なんてないでしょう。」そう、以前、言われた事があります。特に反論や意見はしませんでした。その時の事を思い出すたび、でもやっぱり、ネットでは調べられない事がある、と、改めて思い直すのです。それは、道立図書館でたくさんの資料に触れて回答し、また、当時の上司や先輩、同僚の回答を見て感じた思いです。開拓使留学生のその他大勢の一人であった先祖の足取りを追う調査、今はもう存在しないお店の呼称など、いくらネットで調べても判明しなかった事柄を資料を追って発見し回答した経験は、今後もネットの世界が成熟し続けもっともっと多くの情報が簡単に調べられる様になっても、私を、最後は資料へ立ち返らせてくれる原動力となることでしょう。

大崎梢さんのミステリー『配達あかずきん』（東京創元社）で、お客さんのために一肌脱いで見事謎を解き、本を探し出す書店員が書かれています。フィクションなので当たり前ですが、こんな風にあきらめず、楽しく真摯にお客さんと向き合い問題解決のお手伝いをしたい、また、そこに、図書館の存在意義を求めていきたいと改めて考えます。

国立国会図書館レファレンス研修に参加しました

北方資料室北方資料課 須之内 美智代

平成23年3月3日、4日の2日間、国立国会図書館関西館にて、レファレンス研修が行われました。事前課題として、①「子どものことについてしらべたい」という質問に対するインタビューを想定し、回答を作成、②いくつかのテーマから1つを選び、パスファインダーを作成、③レファレンス・サービスの現状と課題に関する考察、の3点が出され、更に当日は事前課題に沿った講義、レファレンスツールの紹介、事前課題の発表ならびに考察、評価を行うワークショップ、という、非常に密度の濃いプログラムでした。

研修の内容をすべて紹介するには誌面が足りませんので、講義内容の中から印象に残った、日々の業務にも参考になると思われる事例を2点、ご紹介します。

1 レファレンスインタビュー

利用者の疑問を解決するため、提供すべき情報は何か。それを見極めるため、利用者に対して行うのがレファレンスインタビューです。その質問形式には、2種類あります。

開質問：回答者（利用者）が応答内容を考えるタイプの質問

（例）「何を」お調べですか？

閉質問：回答者（利用者）に回答を選ばせるタイプの質問

（例）「お調べなのはハスカップの生産量ですか？栽培方法ですか？」

利用者の質問の範囲を限定してしまう可能性のある閉質問より、多くの情報を得ることができる開質問の方が一般的には望ましいとされるのですが、利用者がレファレンスインタビューに慣れていない場合、いきなり開質問をぶつけると、抱えている疑問を上手に表現することができず、戸惑ってしまうこともあります。このような場合、最初に閉質問で要求を特定化し、その上で開質問を重ねて説明を引き出した方が有効です。

どちらの質問形式が有効なのかは、利用者の属性によります。利用者は図書館を使うことに慣れているのか、何のため、どの程度の情報量を求めているのか。また、紹介する情報源を利用できるのか（全ての人がインターネットを使いこなしているわけではありませんから）、これらを包括的に考えてインタビューを重ね、情報を提供する必要があります。

2 パスファインダーの作成

パスファインダーとは、ある主題について調べる時に役立つ資料や情報源を紹介したものです。単なる書誌ではなく、図書館のサービスや資料を初心者を紹介する役目を果たす「ガイド＝道案内」です。見やすいこと、手軽なことはもちろん、有効な検索語（キーワード）が紹介されている、その主題に辿り着くための方法（分類についての解説、参考図書、基本資料の紹介、検索結果の例など）が分かりやすく表現されている、その主題を扱う他機関、インターネット情報が紹介されている、など、個々人の調査意欲を促進する内容であることが求められます。

また、インターネットの情報は、速報性にすぐれていますが、誰もが発信できるため信頼性に乏しいという欠点があります。紹介する場合は、誰が発信した情報なのか、いつの情報なのか、を確認し、利用者が有用性を判断できるよう明記しましょう。

Librarian's Box (ししょぼ) 【28】

平成 24 年 1 月、新しくなる国立国会図書館のサービス

～ 「国立国会図書館サーチ」本格稼働！ ～

国立国会図書館では、提供している多様な資料・情報、サービスの一元的な利用をめざして、「国立国会図書館サーチ」(以後、「NDLサーチ」とする)の開発を進め、現在、開発版を試行公開中です。そのNDLサーチの本格稼働が、とうとう来年 1 月に迫りました。国内最大級の検索サイトとなるNDLサーチを活用しましょう。



NDLサーチは、国立国会図書館総合目録ネットワーク(ゆにかねっと)、全国新聞総合目録データベース、児童書総合目録、国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)、そしてNDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)、デジタル化資料、近代デジタルライブラリーなどを統合し、すべてが一度に検索できるようにした、国立国会図書館の検索の総合窓口と言えるものです。

また、館種を越えた検索対象を持ち、CiNii[国立情報学研究所](学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス。学術論文情報)、JAIRO[国立情報学研究所](日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索できる、学術機関リポジトリポータル。大学等研究機関の学術情報)ほか、全部で40以上のデータベースが検索できます。

☆相互貸借の依頼について

いままで、国立国会図書館総合目録ネットワーク(ゆにかねっと)から行っていた相互貸借依頼もNDLサーチに移行します。ゆにかねっとからのシステムの変更点としては、公共図書館蔵書以外や和図書以外も検索結果に表示されるため、依頼の際には公共図書館蔵書に絞るなど、注意が必要です。

また、ゆにかねっとのID/パスワードはNDLサーチには継続して利用できません。登録利用者のID/パスワードが必要となります。ID/パスワードをお持ちでない図書館(室)では、準備しておきましょう。

☆登録利用者制度のご案内(NDLホームページ内)

http://www.ndl.go.jp/jp/information/guide_02.html

その他移行スケジュールなど詳しくは、次のサイト等をご参照ください。

☆国立国会図書館総合目録ネットワーク(ゆにかねっと)サイト

<http://somoku.ndl.go.jp/>

☆「国立国会図書館総合目録ネットワーク事業システム統合計画及び事業方針

(平成23年度～平成25年度)」策定 <http://somoku.ndl.go.jp/plan.html>

課員のつぶやき 一日々の業務からの短信【30】

新生「利用サービス課」4ヶ月の記

前号でもお知らせしましたが、本年6月の機構改革で、「奉仕課」と「参考調査課」、そして「業務課」の一部が統合し、「利用サービス課」が誕生しました。当課のおもな業務内容は、旧奉仕課の協力貸出、個人貸出、閲覧、複写、企画展示、図書館ボランティア対応等、旧参考調査課のレファレンス業務、道民カレッジ連携講座ほか各種事業等、そして、旧業務課で行っていた図書館システムに関する業務などです。課長、企画主幹（レファレンス）、主査4名、主任3名、計9名で運営しています。

3課分の仕事が集まったのですから、市町村図書館の皆さんからすれば、協力貸出、レファレンス、システムなど、電話で何を問い合わせても「利用サービス課」につながれ、本当にここでよかったのかと一瞬戸惑いを感じていたようです。館報や図書館ポータルでもお知らせしてはいたのですが、地味なせいか、なかなか浸透しないものなのですね。初期の頃は、常連と思しき利用者からも、「あのう、レファレンスはそちらでいいのですか？」とよく聞かれました。

1課がこんなに大人数なのは初めてのことで、慣れるのに少々時間を要しました。参考調査課時代と比較すれば、これまでは何事も全員で打合せをして進めていましたが、現在は大人数のためなかなか人が揃わず、それもありません。入れ替わりで出るカウンター業務や、班により異なる代休日などが理由です。そこは割り切って、少人数でも臨機応変に協議し、連携しながらことに当たっています。また、課の業務が増えた分だけ、各人の担当業務の幅（負担？）が広がりましたが、課員の数も増えたのだと前向きにとらえ、後期は実績を残せるよう皆で努めたいと思います。

さて、私の道立図書館勤務の振り出しは奉仕課でした。今となっては昔のことですが、あの頃は今よりも利用は少なく、時間がゆったり流れていたように思います。もっとも、カード目録や冊子体目録の時代ですから、検索ひとつにしても違った苦労はありました。また参考調査課にも、数年前に在籍しました。この度の人事異動で久方ぶりに古巣に戻ったと思ったら、すっかり様変わりです。

なお、レファレンス業務については、全員体制で行っています。皆さんの図書館では、レファレンス件数の増減はどうなのでしょう。自館で手詰まりになったら、是非道立図書館につなげてください。皆さんに使っていただいてこそ、当館です。北海道および旧樺太・千島を担当する北方資料室ともども、皆さんの更なるご利用をお待ちしています。

※ 機構改革の詳細は、『北海道立図書館報』第190号（2011.3.25）、『北海道立図書館運営計画 平成23年度』に掲載。当館HPで公開（トップ>図書館の刊行物）

《 お願い 》

- 皆さんの周りで、レファレンスや、課題解決型サービス等で、注目すべき取り組みをしている図書館をお知らせください。自薦・他薦を問いません。ささいなことでも結構です。本誌で紹介させていただきます。
- 『Do-Re』に関する感想やご意見をお寄せください。

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2011年5月～2011年8月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページの順に記載

(参考: 国立国会図書館NDL-OPAC 雑誌記事索引。 MAGAZINE PLUS)

- 1 れふぁれんす三題噺(その 180)静岡県立こども病院医学図書室の巻 医学情報レファレンスにどう答える?—医学図書室からのアドバイス 塚田 薫代 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(5) (通号 1050) [2011.5] p.290~291
- 2 国立公文書館におけるデジタルアーカイブの取組みについて(第4回JHKシンポジウム特別講演より) 八日市谷 哲生 『ネットワーク資料保存』 日本図書館協会・資料保存委員会 (98) [2011.6] p.3~4
- 3 図書館を使った調べる学習コンクールから見てきたこと(特集 レファレンス) 山田 万知代 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(6) [2011.6] p.9~10
- 4 中学校図書館のレファレンス(特集 レファレンス) 村上 恭子 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(6) [2011.6] p.7~8
- 5 小学校の図書室に、何を調べにやってくるのか。(特集 レファレンス) 徐 奈美 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(6) [2011.6] p.5~6
- 6 公共図書館のレファレンス(特集 レファレンス) 杉山 きく子 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(6) [2011.6] p.2~4
- 7 特集 レファレンス 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(6) [2011.6] p.2~10
- 8 れふぁれんす三題噺(その 181)坂出市立大橋記念図書館の巻 思いを乗せたレファレンス 詫間 康弘、藤田 往代、岡西 尚美 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(6) (通号 1051) [2011.6] 39 p.4~395
- 9 地域の歴史を知るためのデジタルアーカイブ—公共図書館の取組みから 『国立国会図書館月報』 国立国会図書館 (603) [2011.6] p.4~11
- 10 館内スコープ デジタルアーカイブへの入り口「PORTA」 『国立国会図書館月報』 国立国会図書館 (603) [2011.6] p.12
- 11 県民と郷土情報の仲介機能を果たす(特集 新しい図書館と地域づくり) 正富 豊 『月刊地域づくり』 地域活性化センター (通巻 264) [2011.6] p.8~36

- 12 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 34)江戸東京 大串奈津美 『あうる(0w1)』 図書館の学校 / 図書館の学校機関紙事業委員会 篇 (101) [2011.6・7] p.40~43
- 13 調べる三姉妹(第5回)寝言・記憶・枕 高田高史 『あうる(0w1)』 図書館の学校 (101) [2011.6・7] p.50~53
- 14 図書館で調べるー神奈川県立川崎図書館 高田高史さんに聞く(特集 今年の夏も図書館へ行こう) 高田高史 『あうる(0w1)』 図書館の学校 (101) [2011.6・7] p.20~27
- 15 調べる方法を考える(特集 今年の夏も図書館へ行こう) 『あうる(0w1)』 図書館の学校 (101) [2011.6・7] p.17~19
- 16 レファレンス記録から(1)スイカにはなぜ縞模様があるの? 杉山 きく子 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(7) [2011.7] p.8
- 17 れふぁれんす三題断(その182)公益財団法人吉田秀雄記念事業財団 アドミュージアム東京 広告図書館の巻 レファレンスによる情報発信 栗屋 久子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(7) (通号 1052) [2011.7] p.456~457
- 18 図書館の政策動向と課題解決支援(特集 公立図書館の新しい役割をもとめて) 糸賀 雅児 『社会教育』 全日本社会教育連合会 66(7) (通巻 781) [2011.7] p.6~12
- 19 図書館の使命は地域社会の問題解決(特集 公立図書館の新しい役割をもとめて) 中島 興世 『社会教育』 全日本社会教育連合会 66(7) (通巻 781) [2011.7] p.14~19
- 20 れふぁれんす三題断(その183)神戸大学附属図書館震災文庫の巻 「震災文庫」を活用ください!ー情報による東日本大震災復興支援 稲葉 洋子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(8) (通号 1053) [2011.8] p.522~523
- 21 著者に聞く『図書館で調べる』高田高史(神奈川県立川崎図書館司書) 高田高史 『週刊教育資料』 教育公論社 1174 [2011.8] p.35

NEWS

1 「わかりやすい健康に関する情報講座」開催（5/28）

北海道医療大学との共催で、初めて紀伊国屋書店札幌本店1階インナーガーデンに会場を移し、51名という例年以上の参加があり、好評でした。

2 「だれでも・どこでも Q&A図書館」開始（6/1）

国立国会図書館レファレンス協同データベースのサポーター有志により、東日本大震災で被災した図書館を支援するために、図書館員がボランティアでレファレンスサービスを代行する「だれでも・どこでも Q&A図書館」が、6月1日（水）立ち上げられました。ウェブフォームで質問を受け付け、「回答団」がメールで回答するシステムになっています。回答団メンバーや事務局員も募集しています。

だれでも・どこでも Q&A図書館 <http://savemlak.jp/wiki/daredoko>

3 国会図書館レファ協「参加館用サイト」のおすすめ事例に当館の事例掲載（7,8月）

- ・TV番組「ローハイド」の主なキャスト、制作時期、放映時期ほか（7月）
- ・北海道下駄（雪下駄）の文献調査（8月）

事例は一般公開もしています。

国会図書館レファレンス協同データベース <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

4 『小学生はこれを読め！』出版（8月）

道内の図書館員も多数選定に加わったブックガイドが、北海道新聞社から出版されました。

5 市町村図書館職員レファレンス体験研修実施中

受講者の希望に沿った形で行う「市町村図書館職員レファレンス体験研修」は、平成13年度の開始から今年9月までに162人が受講されています。現在、数館から研修申込みを受けておりますが、まだまだ募集しております。なお、実施要項を、当館ホームページ「図書館ポータル」に掲載しています。

6 国会図書館「歴史的音源」の公立図書館への配信始まる

1900年初頭から1950年頃までに国内製造された初期のレコード及び原盤をデジタル化し、インターネットを通じて公立図書館へ配信試行するものです。10月から申し込み開始です。

7 全道図書館研究集会で法テラス関連の情報提供（10/7）

全道図書館研究集会終了後、「『法テラス』設立の背景とその業務」と題し、塚原彰氏（日本司法支援センター札幌地方事務局総務課長）から情報提供がありました。

平成23年6月1日以降のレファレンス担当課は・・・
一般資料については「利用サービス課」、北方資料については「北方資料室」です。
レファレンスや貸出の新しい申込書は、当館HPで公開していますのでご利用下さい。

* 当館 HP トップ > 図書館ポータル > 協力ハンドブック > 資料編

編集後記

- ◆ 国立国会図書館の検索も様々な進化を遂げています。われわれ司書もその進化に遅れを取らないよう、日々精進しなければと思う今日この頃です。(Ku)
- ◆ 6月1日より利用サービス課勤務になってから初めてのDo-Re発行を迎えました。編集にたずさわり改めてレファレンスの奥深さを感じました。(k)
- ◆ 久しぶりのレファレンス業務で使える有料データベースが増えていて、使い方を覚えるのに四苦八苦しています。使いこなせれば便利なツールなのでいろいろ使っていこうと思っています。(H)
- ◆ 「こんなのあります」で紹介した『全国映画ドラマロケ地事典』では、3～7ページに北海道を舞台にした作品を掲載しています。あなたの町は、どのような作品のロケ地になっているでしょうか。(T)
- ◆ お忙しい中原稿を書いてくださった太刀野さん、ありがとうございました。さて、利用サービス課になって初めての『Do-Re』はいかがでしたでしょうか。図書館ポータルの伝言などで、お気軽にご感想をお寄せいただければ嬉しいです。(Z)



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス”からの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.43(通巻47号)

発行年月日 平成23年10月12日
編集 北海道立図書館利用サービス課
発行 北海道立図書館
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
e-mail: sancho@library.pref.hokkaido.jp
